



# 県民活動

## 団体紹介

標高300メートル。周囲を山々に囲まれた人口約400人の小さな小さな片田舎、それが大道理です。

「住んで良かったと思える大道理」「住みたくなる大道理」を目指した夢プラン（周南市支援事業）3カ年事業に取り組んでいます。

- ① 休校となった小学校を利用した「コミュニティセンター（仮称）の設置
- ② お年寄りの集いの場作りとしてのサロン。草刈・簡単な家の補修を行う便利屋等の活動。

## 大道理をよくする会

周南市

代表者 中村 俊道



芝桜まつり

③ 地域の特産品の開発と研究  
「過疎と高齢化」「荒れる耕作地」「闊歩する猪・お猿さん」負のスパイラルですが、大道理には、夢と元気のある花咲かじいさんばあさんが沢山います。だから今は、猪もお猿さんも少しは遠慮していると思います。大道理の財産であるお年寄りが元気であれば、若者も安心して田舎に住めます。

以上のようなことを心に刻み、平成26年度完成の「コミュニティセンター（仮称）」を拠点とし、地域の活性化に取り組みたいと考えております。



ほたる観賞の夕べ

## NPO 法人 やまぐち 山口市 男女共同参画会議

代表者 相本 艶子



パネルディスカッションの様子

国際女性年の中間年にあたる昭和55年に、共同参画を推進する「山口県婦人行動対策会議」として設立。その後、名称も「NPO 法人やまぐち男女共同参画会議」と改め、今年で34年目を迎えます。

講演&トーク」では、「世界の長寿国、私たちのこれからの活動は、生き方は」をテーマに、高齢社会のライフスタイルや生き方を話し合いました。

「エンパワーメントフェスタ」などで行った「男女共同参画世界ランキングクイズ」も、多くの人と「世界の中の日本の位置」について考え、関心を高める機会になりました。

超高齢社会は、貧困率が高くとされる女性の一人暮らしが多くなるため、地域福祉や経済政策に関心が高まっています。身近な自治組織等の「意思決定場面」に参画し、共に創る地域づくりへ繋げたいと考えております。

男女共同参画社会の実現に向けた政策セミナーや講演会、地域の課題解決を支援する「地区セミナー」、他団体との交流などの企画運営や調査、提言活動などについて協議・実施しています。

「公開政策セミナー&視察・交流」では、福岡県男女共同参画センター（あすばる）の視察等を行い、活動の「人財」育成で大変盛り上がりました。また、「公開



役員メンバー紹介

Column

## リレーコラム

パートナー 文 有田 光枝

ある日、「どんな呼び方が好き」と尋ねると「お父さん」という言葉が戻ってきました。私は場所と話す相手で、呼び方を区別していません。例えば公共の場では「夫」、近所や友人と話す時は「主人」、家庭では「お父さん」と三つの呼び方を使い分けています。

一番親密に感じる、また、あたたか味のある響きは「お父さん」でしょうか。家庭の中で、家族の中で頼れる安心感、安定感があります。

でも「お父さん」は子供が生まれてから後の呼び方で、その前は「〇さん」であつた記憶があります。

「主人」と言う呼び方は、意外と外出すればひんぱんに出る言葉です。では、私は何と呼ばれているのだろうかと考えた時、やはり「お母さん」が一番のよう。主人は他人に対しては「うちの家内」で話が事足りている様子です。ある家庭では「家内」ではなく「外様（そとさま）」と呼ばれているそうです。お出かけの多い外様です。私も「外様」なのかも……。

呼び方で、その家庭も何となく想像できる様な気がします。いつまでも、家族に愛される「お父さん」で、「元気でみんなに親しまれ、頼れる言葉」とおりの響きであつて欲しいと思います。

# 長門市 発達障がいを考える会 ブルースター

代表 前田 和治



公開講演会で講師とともに

「ブルースター」は平成16年5月に発達障がい児・者とその家族の支援と発達障がいに関する社会的啓発活動を目的として当事者の保護者を中心となって設立し、来年の5月で10周年を迎えることになりました。

会の名前は「信じ合おう」という花言葉の「ブルースター」というお花からつけました。『愛』『互いに愛する気持ちを持つ』『楽』『楽しく生きていこう』『輝』『みんなそれぞれが輝く人生を送ろう』『拓』（ひとりひとりが素晴らしい道を切り拓く）『和』（みんなの和を大切にしよう）と5つの理

念のもとに「みんなのほっとできる居場所」を目指して、活動を行っています。主な活動としては、乗馬体験、定例会、公開講演会開催などがあります。

これからも、療育活動、生活技術の教育、就労支援、余暇活動支援などを中心に地域に根ざした活動を明るく楽しく続けていくつもりです。

また、今年から力を入れて取り組むものとして「ペアレントメンター養成」があります。障がいを持った子供さんの保護者の方々の「良き助言者」として、私たちの経験やネットワークを活かしてお役に立ちたいと考えています。

「できる人ができる時にできること」をモットーに障がいを持つ方々だけでなく誰もが住みやすい地域作りのお手伝いをしていきます。



乗馬体験

# 下関市 森の出会いのファンクラブ

代表者 長尾 久志

森は生きています。森の中には多くの生き物たちが生活しています。私たちは、その森から多くのことを学び、夢と希望を得ることが出来ます。すばらしい出会いと人々の幸せを願ってここに「出会いの森」憲章をかかげます。

★★★★ 私たちは、森をたいせつにします。  
★★★★ 私たちは、美しい心をたいせつにします。  
★★★★ 私たちは、森からの恵みをたいせつにします。  
★★★★ 私たちは、森からの感動や喜びをわがちあいます。  
★★★★ 私たちは、森を通じて、多くの人たちとの出会いをたいせつにします。

二〇〇二年四月

出会いの森 憲章

水辺の生き物に興味を示す子、森の昆虫に夢中になる子、木登りやロープを使ったアドベンチャーが好きなお子と、森に来る子どもたちは様々です。森には自然の教材が沢山あり、好奇心旺盛な子どもたちを遊ばせてくれます。この遊びの中で興味を持ったことが学びのヒントとなり、森で活動することで自ら学ぶ力を育んでいます。



手ほり体験

近年、インターネットを利用すれば様々な情報を入手できます。文章や写真だけでなく動画も備わっているものも増えて、とても便利になっています。ですが、これらの情報に触れることにより得られる仮想的な体験より、とりわけ子どもたちには実体験を勧めています。

何かを学ぶためには自分で体験する以上にいい方法はありません。

また、子どもの頃の体験・経験の数が、将来の職業選択の幅を広げるともいわれています。

出会いの森ファンクラブは、子どもたちが自然とたわむれる森の環境維持と、地域で行われるフェスタやクラフト教室の参加を通じて、出会いと体験と学びのチャンスをお届けする団体として活動しています。

Column

リレーコラム

パートナー 文 藤田 多嘉子

私にとって印象に残る夫の呼び方が二つあります。

一つ目は、結婚して間もない頃、クラスメイトと同窓会で再会した時、彼女が自然に「主人は・・・」と話すのをとても大人っぽく感じました。

二つ目はそれから10年後、当時私は、家事や育児をこなしながら仕事をし、社会や家における女性の立場の弱さを感じていました。「主人」という言葉の意味を考え、従属感があるなと思ったりしました。

その頃、友達になった女性が夫のことを「ダーリン」と呼んでいて、その聞き慣れない呼び方に最初は驚きを感じました。でも、彼女は海外生活の経験があり、仕事や家庭に対してとても意欲的で研究熱心な人。それが素直に現れた呼び方でもとても彼女らしいと思いました。

私の印象に残る二つの呼び方は、それぞれに彼女達らしくその呼び方が自然で似合っていて、素敵でした。

そして更に10年後の今、夫の呼び方について考えた時、呼び方は気にすることではないなと思いはじめられています。そんな表面的なことにとらわれず、夫婦二人の間に信頼と絆があり納得しているのであれば、どの呼び方も素敵なのではないでしょうか。